宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後の
あり方に関する意見書（案）

令和４年　月

宇治市乳幼児期の教育・保育の
あり方検討委員会

＜　目　次　＞

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第１章　乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方

１　乳幼児期の教育・保育の基本理念・・・・・・・・・・・・・・　2

２　宇治市の目指す子ども像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

第２章　宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題と今後のあり方

１　宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題・・・・・・・・　4

２　これからの宇治市における乳幼児期の教育・保育に求められるもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

３　宇治市の公立施設における取組・・・・・・・・・・・・・・・　5

第３章　宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

はじめに

乳幼児期は、子どもたちが生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。乳幼児期の子どもは、日々の生活や遊びなどを通して、情緒的、知的な成長・発達や社会性を習得し、人としての生きる力の基礎を獲得しています。

一方、少子化の進行や就労形態の多様化、配慮や支援を必要とする子どもの増加など、今日的な課題を踏まえ、様々な状況にある子どもたちの学びと育ちを保障していくため乳幼児期の教育・保育の一層の充実を図っていく必要があります。

平成２４年に成立した「子ども・子育て支援法」に基づき、平成２７年には、質の高い乳幼児期の教育・保育の総合的な提供、保育の量的拡大・確保、地域における子ども・子育て支援の充実等を目的とした「子ども・子育て支援新制度」が開始されました。

また、平成２９年に幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、施設類型を問わず、質の高い教育・保育の提供が求められており、文部科学省の「幼児教育の実践の質向上に関する検討会」や厚生労働省の「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」等で国において検討されてきています。

宇治市の公立幼稚園では、平成２２年に宇治市就学前教育のあり方検討委員会からの意見、また、平成２９年の宇治市公立幼稚園検討委員会提言書を踏まえ、この間、３年保育や預かり保育を実施されてきましたが、公立幼稚園の園児数の減少による集団教育上の課題は解決していません。

本検討委員会では、乳幼児期の教育・保育についての様々な課題について、公立及び私立、民間の就学前施設それぞれが果たすべき役割を踏まえつつ、具体的な取り組みの方向性について議論を行ってきました。

この意見書を踏まえ、全ての子どもたちが夢と希望をもって成長していけるよう、市内全ての就学前施設がそれぞれの役割を十分に果たしていかれることを期待しています。

第１章　乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方

全ての子どもたちが将来に夢と希望をもち健やかに育つため、地域、家庭、就学前施設等がきめ細やかな連携をして、乳幼児期の現在を生きる子どもたちが輝く環境をつくっていくことが重要です。そのため、乳幼児期の教育・保育についての基本理念や目指す子ども像について、就学前施設と小学校、中学校で共有し、子どもの発達に応じた乳幼児期の教育・保育が行われることが必要です。

１　乳幼児期の教育・保育の基本理念

乳幼児期の教育・保育に関わる基本理念については、乳幼児期の教育・保育のより一層の充実に取り組む上で定める必要があります。

また、基本理念は、大きな視点として共感し、共有化できるものであることが必要です。

乳幼児期の教育・保育の今後のあり方について、宇治市としての方向性が決まり次第、以下の検討委員会での意見を踏まえ、検討を願います。

【子どもの健やかな成長の観点】

・子どもが現在（いま）を最も良く生きること。
・人として今輝くことを保障し、輝きをつないでいくことが未来につながること。

【配慮や支援が必要な子どもの観点】

・希望者を就学前施設で受け入れられる環境整備を進めること。
・誰一人取り残さず、子ども同士の出会いをしっかり結んでいくこと。

【子どもの学びと育ちの連続性の観点】

・保幼小、施設類型に関わらず人が向き合い交流することで連携を促進すること。
・宇治市教育振興基本計画にある、「切れ目のない支援のため、幼児期から義務教育終了まで一貫した相談・支援体制を構築」し、就学前後の施設が更に連携して子どもの学びと育ちの連続性を保障していくこと。

【地域や家庭、施設の連携の観点】

・点と点から線や面での連携を推進すること。
・連携（つながり）が子ども自身や保護者の安心感につながること。
・網目きめ細やかに連携を促進し、連携の質を高めていくこと。

【乳幼児期の教育・保育の重要性の観点】

・子どもたちが、能動的に問いを見つけるような乳幼児期の教育・保育が、子どもたちの発達や学習の基盤、土台となること。

2　宇治市の目指す子ども像

目指す子ども像については、検討委員会において、次の各種計画に定める方向性のとおり、宇治市の就学前施設と小学校、中学校で共有していくものであることを確認しました。

〇　『乳幼児期からの子どもの発達や学習の連続性を重視し、学ぶ意欲や自立心を高める取り組みを推進するとともに、「生きる力」をはぐくんでいくことが重要です。（以下、略）』（第２期宇治市子ども・子育て支援事業計画）

〇　『「ふるさと宇治」を愛し、グローバルな視点に立ち、社会の変化を前向きにとらえ、主体的に考え行動し、よりよい人生と「あすの宇治」を創り出せる人』（第２次宇治市教育振興基本計画）

第２章　宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題と今後のあり方

１　宇治市における乳幼児期の教育・保育の課題

宇治市の乳幼児期の教育・保育を取り巻く課題について、次のとおり整理しました。

⑴　就学前の乳幼児数の減少等について

少子化が進行し就学前の乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数は著しく減少し、集団教育上の課題が生じている。

⑵　多様な就労形態への対応について

女性の就業率の上昇などにより乳幼児期の教育・保育に対する保護者のニーズは多様化している。

⑶　配慮や支援を要する子どもの増加について

配慮や支援が必要な子どもの割合が増加しており、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育・保育を行うことが求められている。

⑷　私立・民間施設との連携・協働及び人材育成について

宇治市全体の保幼小連携などの取組を公立、私立、民間、施設類型を問わず全市的に連携・協働していくとともに、人材育成が求められている。

⑸　家庭や地域、関係機関との連携について

幼稚園、保育所等が地域に根差した施設として、子ども・保護者・地域が活動や交流を行っていくための拠点施設としての役割が求められている。

２　これからの宇治市における乳幼児期の教育・保育に求められるもの

上記の課題に対し、その解決のためにこれからの乳幼児期の教育・保育に求められるものは、次のとおりです。

⑴　公立の就学前施設において基本となる教育・保育を実践することにより、市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させること。

⑵　発達障害や医療的ケアを要する子どもなど、配慮や支援が必要な子どもや家庭に対し、これまで公立、私立、民間それぞれで積み上げてきた知識や経験を活かしながら、共に支援していく仕組みを構築すること。

⑶　公立施設間の連携のしやすさを活かし、小学校と保幼小連携の研究実践を私立幼稚園や民間保育所等とともに進め、その効果を共有し、市全体で連携・協働していくこと。

⑷　合同での各種研究、研修の実施を通じ、施設類型に関係なく職員同士の連携の強化を図るとともに、人材育成に努めること。

３　宇治市の公立施設における取組

課題や求められる教育・保育を踏まえ、次のとおり、公立施設の取組を進めていくことを期待します。

⑴　基本となる教育・保育を実践することにより、市域全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる取組を推進していくとともに、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえ、公立就学前施設の適正規模を維持すること。

⑵　発達障害や医療的ケアを要する子どもなど、配慮や支援が必要な子どもや家庭に対するセーフティネットを担うとともに、療育など福祉と連携した施設への支援体制を強化すること。

⑶　公立施設という強みを活かし、小学校と保幼小連携などの研究実践等を先導的に実施するとともに、公立、私立、民間など施設類型を問わず、宇治市全体の保幼小連携のための架け橋プログラム等の研究、研修機能や子育て支援機能の強化を図ること。

⑷　職員同士の連携の強化及び人材育成を図るため、各種研究、研修の実施の場を設けること。

第３章　宇治市の乳幼児期の教育・保育の今後のあり方に関する意見

宇治市の乳幼児期の教育・保育施設を取り巻く課題として、「少子高齢化が進行し就学前の乳幼児数が減少する中、特に公立幼稚園の園児数が著しく減少し、適正な規模での教育・保育となっていないこと」「女性の社会進出やテレワークの普及など多様な就労形態により、乳幼児期の教育・保育に対する保護者のニーズが多様化していること」「配慮や支援を要する子どもが増加し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな教育・保育を行う必要があること」が挙げられます。

こうした課題に的確に対応しつつ、子どもたちの健やかな成長を実現し、宇治市における乳幼児期の教育・保育の一層の充実を図るため、宇治市乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会が設置されました。

本検討委員会では、宇治市における乳幼児期の教育・保育についての現状や推移を様々なデータ等で把握するとともに、幼稚園・保育所（園）・認定こども園に対するアンケート結果の報告を受け、意見交換を重ねてきました。

私立幼稚園や民間保育所・認定こども園は、これまでの間、宇治市における教育・保育の一翼を担ってきており、それぞれの施設が保護者ニーズや社会情勢の変化に応じた特色ある独自の教育・保育を実践することで、宇治市の乳幼児期の教育・保育の質の向上が図られてきています。また、地域や家庭と連携し、子育て相談や地域行事への参加に取り組むなど、地域に根差した拠点施設としての役割も果たしてきています。私立幼稚園や民間保育所・認定こども園には引き続きこうした取り組みを実践し活躍されることを期待します。

公立就学前施設は、基本となる教育・保育を実践することにより宇治市全体の乳幼児期の教育・保育の質を確保・向上させる取り組みを推進することが求められています。そのためには、研修や研究、人事交流等により幼稚園教諭、保育士等の職員の人材育成を図っていく必要があります。

また、公立施設という強みを活かし、小学校と保幼小連携などの研究実践等を先導的に実施するとともに、私立幼稚園や民間保育所・認定こども園など施設類型を問わず宇治市全体の保幼小連携のための研究、研修機能や子育て支援機能の強化を図る役割も求められています。そのためには、

公立幼稚園・保育所と私立幼稚園、民間保育所・認定こども園がそれぞれの強みを活かして協働による研究実践を推進していく必要があります。

　さらに、発達障害や医療的ケアを要する子どもなど、配慮や支援が必要な子どもや家庭に対するセーフティーネットを担うとともに、福祉と連携し施設への支援を強化することが求められています。そのためには、施設の環境整備を進めるとともに、療育施設など関係機関と連携し、情報共有や研修等を通した人材育成を図る必要があります。

　なお、公立就学前施設について、宇治市全体の教育・保育の見込量、需給調整の状況等を踏まえた適正規模を維持することが求められており、検討委員会においては、認定こども園化も視野に入れながら、基本となる教育を実践する公立幼稚園機能は残していく必要があると考えます。

　宇治市の乳幼児期の教育・保育におかれましては、安心して子育てができる環境とともに子どもが育つ環境づくりが進み、子育て、子育ち支援の充実に向けた取組を一層進められることを期待いたします。